（別紙様式）　　e01

平成２６年度　学校自己評価システムシート（県立春日部高等学校・定時制課程）

目指す学校像	基礎学力を確実に身に付けさせるとともに、様々な教育活動を通じて人権尊重の精神を養い、一人一人の生徒が生き生きと前向きに学び合うことができる学校

重点目標	1　一人ひとりの居場所の確保、安心して学べる学習環境の整備 2　「わかる授業」の実践と進路に応じた学習能力の育成 3　キャリア教育の実践と進路希望の実現 4　安定した生活習慣の獲得、社会規範の形成、自己管理能力の育成 5　保護者、地域、中学校と連携した教育の推進

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　　名
　　生徒　　名
　　事務局（教職員）　　名

学校自己評価						
年度目標				年度評価（　月　日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○社会人、不登校、中途退学経験者、外国籍など多様な生徒が在籍するなか、一人ひとりの生徒の実態に応じた指導を実施する。 ○一人ひとりの居場所を確保し、学校生活に前向きに取り組むことができるような教育活動の工夫と学習環境が必要である。	○中途退学率の減少 ○学校生活に満足している生徒数の増加	①ＳＣによる個人面談と報告会を実施し、より効果的な生徒への指導を行う。 ②年３回の学校生活に関するアンケートを実施・分析し、結果から教育活動に工夫を加え、実施する。 ③近隣の特別支援学校を訪問し、ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰと連携を図り指導力向上を図る。	①中途退学率が前年度より減少したか。（H25:10.1%） ②学校生活に満足する生徒の割合が80%を越えたか。（H25:71.3%） ③生徒指導案件が昨年度よりも減少したか。（H25:5件）			
2	○生徒アンケートで「授業がわかる」と回答する生徒が増加し、授業が静かであると周囲からも高く評価されつつある。基礎学力の確実な定着とともに、進路希望に応じた学力の向上が課題である。	○「授業がわかる」生徒数の増加 ○静かで落ち着いた授業の実現	①教員相互の授業参観や授業研究により授業改善を図るとともに学習サポーターを活用し、わかる授業を展開 ②少人数・習熟度別・ﾃｨｰﾑﾃｨｰﾁﾝｸﾞによるりきめ細かな学習指導 ③来校者によるアンケート調査の実施と調査結果の授業への還元	①定期的に実施する小・中学校の学年別理解力テストの結果が向上したか。 ②「授業がわかる」生徒の割合が80%を越えたか。（H25:69:3%） ③来校者の授業アンケートで「静か」「真剣さが感じられる」が80%を越えたか。			
3	○進路未決定で卒業を迎える生徒が少なくない。入学時からキャリア教育の充実とともに、生徒の希望する進路を実現するため計画的・組織的な取り組みが必要である。	○進路未決定で卒業する生徒数の減少 ○進学希望実現者数の増加	①進路講演会の実施（5月）、分野別専門学校体験講座（5月） ②授業や特別活動を活用したキャリアガイダンスを実施する。 ③総合学習の時間を活用し、進路に必要な基礎学力の向上に努める。	①進路未決定者の割合を30%以下にすることができたか。 ②正規雇用者の割合が30%を越えたか。 ③企業訪問件数50社以上訪問し、就職実現率を前年度比10%以上増加することができたか。			
4	○基本的生活習慣はかなり改善されつつあるが、規範意識の定着はまだ不十分である。あらゆる機会を捉えて粘り強く指導し、社会のルールやマナーを遵守できる生徒を育成する必要がある。	○非行・問題行動発生率の減少 ○無断欠席、遅刻、早退者数の減少	①登校時は立哨指導を行い日頃から全生徒との関係を深める指導を行う。 ②教員対象の研修会を実施し、欠席・遅刻等の多い生徒の指導方法を学ぶなど、教員の指導力向上を目指す。	①非行・問題行動の発生件数を減少することができたか。（H25：5件） ②出席率90%以上、遅刻率、早退率・欠課者数を減少することができたか。（H25出：88.1% 遅：13.6% 早：3.0%）			
5	○中学校への積極的な訪問や、ＨＰを定期的に更新し、最新の情報を提供することによって目的を持って入学する生徒の割合を増やす。そのためには、学校全体で計画的・組織的な取り組みが必要である。	○学校見学者数の増加 ○入学希望者数の増加 ○来校保護者数の増加	①これまでの中学校訪問・学校見学体制を見直し、全教職員による計画的・組織的な体制をつくる。 ②受検生にとってより魅力的な学校案内を作成し、近隣の中学校に配布する。 ③適応指導教室への訪問 ④定期的にHPを更新し、最新の情報を提供する。	①新たに確立した体制が十分機能することができたか。 ②中学校関係者来校数は増加したか。（H25:59名） ③適応指導教室への訪問数は増加したか。（H25:16回） ④定期的にHPを更新したか。			

学校関係者評価
実施日　平成　年　月　日
学校関係者からの意見・要望・評価等